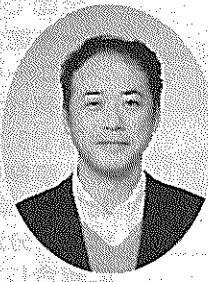


# キャリア権の時代

【第7回】



法政大学大学院  
政策創造研究科  
教授

石山 恒貴

NPPO法人キャリア権推進ネットワーク  
「キャリア権推進研究会」

## 個人の役割が増大

今までの連載の中で、キャリア設計の主体が「組織決定型」から「個人決定型」に緩やかに移行し、今後は企業主導ではなく、個人がキャリア設計を行う場面が増加すると述べてきた。

ただ、その

ような変化は簡単に進行するわけではない。それは公助（国が行う

こと）、共助（企業や学校など組織体が行うこと）、自助（個人が行うこと）のバランスを見直さなければならぬことを意味する。なぜなら「雇用保障」を重視する社会システムにおいては、キャリア設計

に関する一連の事項（異動、昇進、能力開発など）については、企業などの共助に多く期待され、公助や自助の役割は、共助への支援が中心だったと思われるからだ。しかし、「キャリア保障」のために「個人決定型」が重視される社会システムでは、公助、共助、自助がそれぞれ

## 自助・共助の連携を

### 北欧諸国事例が参考に

に重要な役割を果たすよう、バランスを変えていかなければならない。

#### 最適なバランスへ

下図をご覧ください。公助、共助、自助は、バラバラにその役割を果たしても効

昇進、能力開発など）については、企業などの共助に多く期待され、公助や自助の役割は、共助への支援が中心だったと思われるからだ。しかし、「キャリア保障」のために「個人決定型」が重視される社会システムでは、公助、共助、自助がそれぞれ

昇進、能力開発など）については、企業などの共助に多く期待され、公助や自助の役割は、共助への支援が中心だったと思われるからだ。しかし、「キャリア保障」のために「個人決定型」が重視される社会システムでは、公助、共助、自助がそれぞれ

昇進、能力開発など）については、企業などの共助に多く期待され、公助や自助の役割は、共助への支援が中心だったと思われるからだ。しかし、「キャリア保障」のために「個人決定型」が重視される社会システムでは、公助、共助、自助がそれぞれ

との支援に注力することができ、公助において、国は、個人がその希望と能力に

個人がその希望と能力に合ったキャリアを設計していくためのマクロ的な施策を行うことが可能。このように、国、企業、個人など公助、共助、自助の担い手が連携していく

個人がその希望と能力に合ったキャリアを設計していくためのマクロ的な施策を行うことが可能。このように、国、企業、個人など公助、共助、自助の担い手が連携していく

工夫が求められるだろう。

例えば、明治学院大学の両角道代教授は、「国家は制度をつくることはできるが、教育訓練を受けるよう個人に強制することはできない」（両角道代〈2012〉「スウェーデンにおける若年雇用者と職業能力開発」『日本労働研究雑誌』）しながらも、個人が望んでも教育を受けることのできない要因を取り除くことは

法政策の重要な役割であるとし、スウェーデンの職業能力開発の施策は、キャリア権を保障する試みの一例であると評価している。

スウェーデンをはじめとした北欧諸国は、個人のキャリア設計に関する主体的な取組みを尊重しつつ、国の施策としての職業能力開発に熱心な

スウェーデンをはじめとした北欧諸国は、個人のキャリア設計に関する主体的な取組みを尊重しつつ、国の施策としての職業能力開発に熱心な

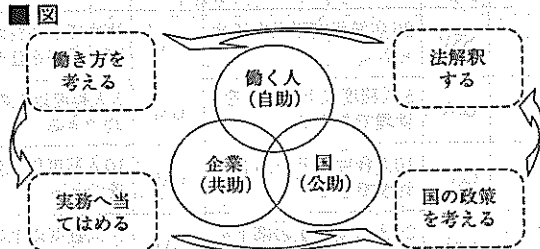
日本の雇用の歴史的な経緯を無視して他国の事例を導入する必要はないが、キャリア権の保障に関する各国の先進事例を積極的に参考にし、公助、共助、自助の新しいバランスのあり方を考えていくことが重要ではないだろうか。

日本の雇用の歴史的な経緯を無視して他国の事例を導入する必要はないが、キャリア権の保障に関する各国の先進事例を積極的に参考にし、公助、共助、自助の新しいバランスのあり方を考えていくことが重要ではないだろうか。

日本の雇用の歴史的な経緯を無視して他国の事例を導入する必要はないが、キャリア権の保障に関する各国の先進事例を積極的に参考にし、公助、共助、自助の新しいバランスのあり方を考えていくことが重要ではないだろうか。

日本の雇用の歴史的な経緯を無視して他国の事例を導入する必要はないが、キャリア権の保障に関する各国の先進事例を積極的に参考にし、公助、共助、自助の新しいバランスのあり方を考えていくことが重要ではないだろうか。

日本の雇用の歴史的な経緯を無視して他国の事例を導入する必要はないが、キャリア権の保障に関する各国の先進事例を積極的に参考にし、公助、共助、自助の新しいバランスのあり方を考えていくことが重要ではないだろうか。



出所) NPPO 法人キャリア権推進ネットワーク「アックレット キャリア権を知らろう」2013年